

I S S N 0289—9302

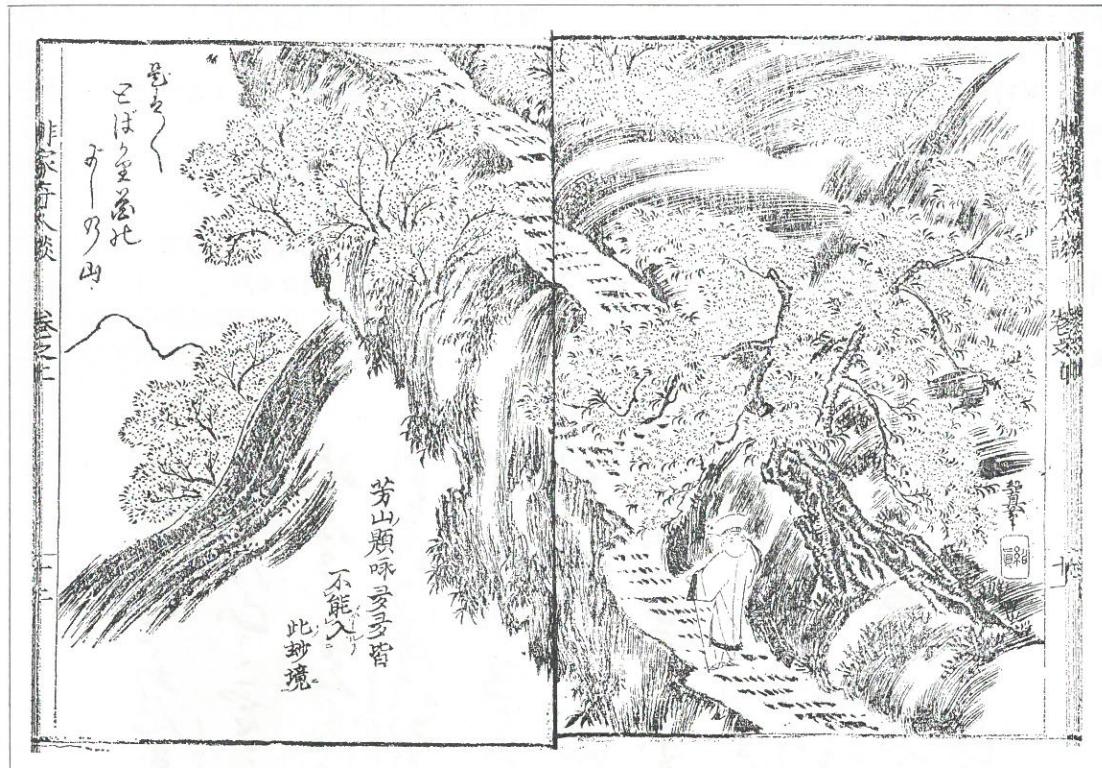
TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

KΟΣΜΟΣ

コスモス No. 82 1988 夏

特集

図書館と私



竹内玄玄一編『俳家奇人談』天保13年刊 卷之上より (911.302 : T G)

貴重書から

里村昌琢加点

連歌百韻一巻

谷地快一

1 書 誌

- 箱書 昌琢点 発句巻
 題簽 昌琢点 発句巻（後補・墨・左肩・無辺）
 内題 ナシ。料紙の巻首部分が損傷。
 作者 不詳。
 点者 里村昌琢。巻末に「付墨十七句／此内長
 一／法橋昌琢印」
 年記・識語 ナシ。
 印記 写真参照。
 分類 独吟連歌百韻点巻。
 装幀 卷子本。
 寸法 軸の高さ 17.2纏
 軸の幅 376纏
 本文料紙幅 344纏
 料紙 九枚つなぎ。（長いもの 64 纏、短いもの
 14.8 纏）虫損・シミ・破れ等あり。
 表紙 藍色。見返しに金の砂子をちらす。

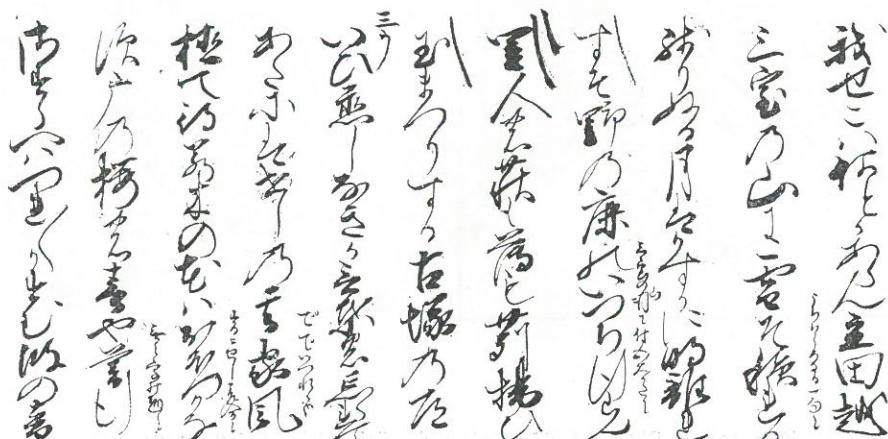
2 解 説

本書は里村昌琢が加点した連歌百韻一巻であつて作者不詳。箱書き及び題簽に見える「昌琢点 発句巻」という呼称は誤りである。昌琢は連歌作者。昌叱の子で紹巴の女を母に持ち里村南家を継いだ。昌琢と名乗るのは1599年（慶長四）からで、かつ法橋に叙せられるのは1608年（同十三）である。

したがって本書の成立は1608年から、法眼に叙せられた1632年（寛永九）の間となるが、おそらくはその後半のものか。

成立及び作者について不詳とせざるを得ないのは料紙の巻首部分が損欠するためであるが、初折オモテ八句と合点（引点）句を前句とともに示すとの通り。〈句頭の数字は各折の句番号 □損欠（ ）推読 引点句は句頭に○印、そのうち長点は◎印で示す。なお、横書きの都合上オドリ字はその文字を繰り返した。〉

- 発句 □□□小□や□□□□
 脇 □□□麓の道の休らひ
 第三 狩人の（帰る夕）□ともなひて
 4 月すみのほり渡す川舟
 5 風さそふ流の霧や晴ぬらん
 6 ○下葉より□柳散行
 7 ○光さす門田ハ色にほのめきて
 8 朝またきにし鳥々の声
 初折ウラに
 4 くたす小舟は波のまにまに



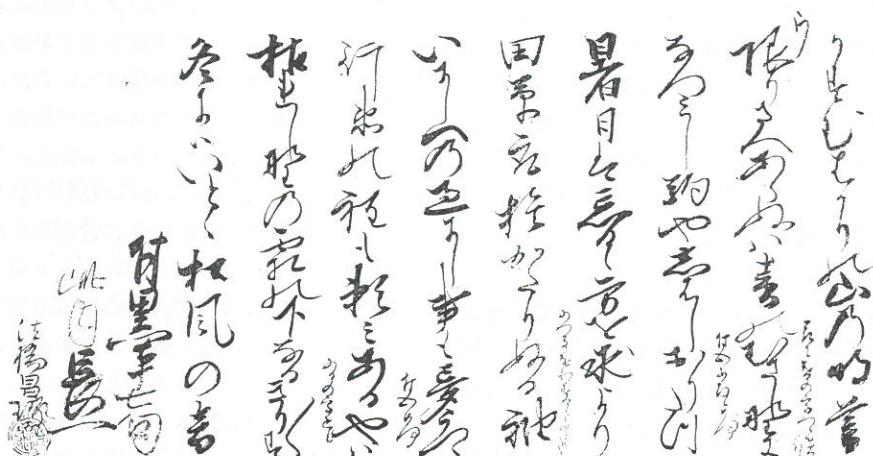
- 5 ○瀧つ瀬の岩根岩根に漲りて
 6 はれん□せぬ五月雨の空
 7 ○短夜の月もや雲にかへるらん
 11 春きぬと木陰の花の紐ときて
 12 ○風にたひたひ送る梅か香
 13 霞しも晴る難波の船の上
 14 ○海原遠くかへる鷹か音
 二折オモテに
 6 草の庵ハ住も侘しき
 7 ○ゆかりさへおとろへぬればうとミ果
 二折ウラに
 7 見る見るも秋の時雨の晴返り
 8 ○色ふかくしもなる薦紅葉
 三折オモテに
 4 ひかりもみたれ螢飛かけ
 5 ○涼しくも沢辺遙に暮渡り
 10 三室の山に雪そ積れる
 11 残りぬる月はかすかに明離れ
 12 ○すそ野の鹿のいつち行らん
 13 ◎里人の萩も薄も苅拂ひ
 14 ○玉まつりする古塚の道
 三折ウラに
 9 真葛葉にかけ白妙の秋の霜
 10 ○夕の月にはそき虫の音
 12 立留りし逢坂の閑
 13 ○名残をも都の方や惜むらん
 名残オモテに
 3 遠近の空も長閑に成てきて
 4 ○さす舟おほき春の潮潮

- 名残ウラに
 6 行衛の程も頗ミあるやハ
 7 ○枯れし野の霜の下なるきりきりす

以上に示した合点句の数は全十六句で、上記の点者の項に見える「付墨十七句／此内長一」の記載とは一句の差がある。これは、残りの一旬が損欠部分の発句か脇句に当たるものと推定される。一巻はこの合点のほかに、類似・同種の言葉が規定以上に近づいて出て来ることを嫌う連歌の式目に照らし合わせて、守るべき指合（さしあい）去嫌（さりきらい）および用字に関する短評を加えている。

昌琢が一座した連歌は二百点以上が現存し、數種の昌琢句集や式目書、さらには『類字名所和歌集』の編纂に伺われるよう、紹巴や昌叱の没後の昌琢は連歌界の第一人者であった。したがって弟子も諸国にわたっていたから、本書のごとき点巻は多い。特にはぼ同時代を生きた松永貞徳が実作者であると同時に、連歌から俳諧にわたる指導書を数多く残していることに比べて、昌琢は徹底した実作者であったとされる。ゆえに、本書に対する文学史的な関心もまたそこにある。

（短期大学助教授 たにち・よしかず）



特集 図書館と私

『資本論』との 感動的出逢い

田中菊次

白山のキャンパスに、私は、南門から入ることが多い。白山神社の境内には、“東洋大生の通り抜けお断り”と書いてあるが、“孫文先生座右”碑のあたりを通って、四季折々の木や花や香りの路は、仲々、捨て難いのである。南門から図書館のピロティ、五号館の本学のシンボル“四聖”的リーフの下を通る。ピロティからの中庭の冬椿の色は、毎年、その季節、賛嘆するばかりの美しさであるが、日頃は、いつも、頭上の万巻の書を想って、一種の安らぎとともに、一種の緊張感を覚える。

図書館は、私にとって、文字通り研究室の一部であるが、40年余りの研究生活を通して、その意味で“私の図書館”といえるのは、次の三つだけである。長い間勤務した東北大学と、マルクス研究で何回か出向いたオランダ・アムステルダムの“社会史国際研究所”と本学の図書館である。マルクス研究を始めたばかりの頃、東北大学の“柳田民藏文庫”の中で偶然取り出した『哲学の貧困』の原書の一冊が、かつてはロンドンのマルクスの書斎にあり、彼の死後はドイツ社会民主党の文庫に渡り、その後は行方不明となっていた著者自用の書き入れ本であったことを発見したり、アムステルダムの研究所で、未公刊の『資本論』関係手稿類を前にして、“ここに真理の真理への道がある！”と、震える手でその第1ページを開いた時の感動などは、忘れ難い。

本学の図書館との付き合いはまだ短くて、とうてい充分な活用とまではゆかない。ピロティを通るたびに、いつも一種の緊張感のようなものを感じるもの、その故かも知れない。

(経済学部教授 たなか・きくじ)

図書館の管理と サービス

岩淵泰郎

図書館学を教授する立場にあって、いずれは図書館職員として勤務するであろう学生諸君を指導しながら、ついで現在の図書館が当面する問題にぶつかることが多い。

授業では図書館の本質、技術、そしてサービスなどについて、るべき姿が描かれる。

多くの場合、学生は利用者として大学図書館を感じ、接する。そして、図書館学を学ぶ学生の場合はどうしても教室で知った図書館像を現実の図書館の上に重ねてみることになる。

そして、利用者でもあり図書館学を学ぶ者でもある学生の声が疑問となって私達に返ってくる。

図書館職員を目指す青年達の情熱はあくまでも純粋で理論的である。“図書館はどうしてこうなのだろうか”“なぜ、こうして貰えないのだろうか”“自分はこういう図書館員にはなりたくない”などと言った言葉である。

現実は、いろいろな問題があって理想どおりには行かない、と説明するが、若者の気持ちはすっかりとはしないことが多いようである。

インドの世界的な図書館学者ランガナタンは、「図書館学の五法則」を掲げているが、それらの本旨は「図書館は利用されるためにある」ということに尽きるものであろう。しかし、現実に多くの図書館は「管理することに重点を置いている」かのように見えるのであろう。管理なき図書館はまた利用しにくい図書館であることも事実である。

学生の諸君には、図書館の仕事や図書館員の考え方、外から見たり感じたりすると、職員として中に入つてからのそれとは大きく違うものだと説明する。そしてさらに、今の気持ちを大切にして欲しいとも付け加える事を忘れない。そして

図書館の管理はより良きサービスのためであり、
知的サービスには限界はないということを。

(社会学部教授 いわぶち・やすお)

図書館員でもあった私

森 章 司

私にとっては学生時代から、東洋大学の図書館とは浅からぬ因縁がある。というのは、図書館が勉学と研究の場であったばかりではなく、生活の場でもあったからである。したがって図書館といえば、私にとってはまさに東洋大学附属図書館のことである。

大学に入学して、大学院の博士課程を修了するまで、若干の間断はあったけれども、ほぼその全期間を通じてアルバイト職員として勤務させてもらったのである。従って朝から晩まで図書館に入り浸りで、卒業論文も修士論文もここで書かせてもらった。勿論仕事もしたのであるから、現に私の作ったカードがボックスに入っており、私の書いたラベルの本が書架に並んでいる。

しかし何よりも有難いのは、この長年の間に修得した図書館そのものの使い方のコツと、その間に培った人間関係である。図書館というものには、決して所蔵図書を有効に利用させるという面ばかりではなく、収書とその適正かつ迅速な分類・整理と、その不足を学外他機関との提携によって補うことといった役割もあるのであるから、図書館そのものという表現で私が言い表わしたい内容のあらかたはご理解いただけるであろう。

といって東洋大学の図書館だけですべて事足りるわけではない。いざという時には、所蔵調査とその貸出を電話で頼めるくらいの、他の専門図書館との浅からぬ因縁も二つや三つ作っておくことも必要である。そういう意味でも、図書館や図書館員との間の深情けは誠に有難いものなのである。

(文学部教授 もり・しょうじ)

「もう1つの図書館」

細井洋子

私が同世代の人と比較して図書館をよく利用しているか否かは明らかではないが、私は最近、地域の図書館に繁縟通っているように思う。それが何であるかについてあまり深く考えてみたことはないが、一つはっきりしていることは、今迄のように「あれをしよう」「これをしよう」といった明確な目的をもっていないことである。何となく足が図書館に向いているのである。そう考えると何か暇を潰し、エア・コンのきいた部屋での心地良さを楽しんでいるようであるが、私自身にとってはもっと真剣なのである。それを私は「情報の攪乱効果」と呼んでいる。つまり図書館に行って、たまたま視界の中に入った書棚の本や雑誌を片っ端からぱらぱらと捲るのである。一冊の本が数分の時もあれば、一頁にじっとこだわる時もある。自分が今考えていることに直接には何ら関係がない（役に立たない）ような情報を頭の中に一杯とり入れることによって、それ迄頭の中で定位置を占めていた「思考枠」がふっと壊れて、一瞬空っぽになる心地よさを味わうことができる。自分の世界で、それも自分がある効果を予期して選んだ本を土台にして組み立てたものがやけに空回りして、自分の先駆的な考え方と思い込みの産物に終わった時は、何とも言えない苛立ちと空しさを感じる。そのような時に、図書館に所狭しと並んでいる絵本や料理の本、住まいの本、天体の本、昆虫の生態の本などをランダムに読み続けていくことによって、ひとりよがりの思考の道順を遮断してくれるといった思いがけない効果を得ることができる。

今日はテレビといった一方的に画面に流される映像メディアの時代である。しかし自分の感触で情報の流れの舵をとれるのは活字メディアであり、それは図書館の中で与えられるような気がする。

(短期大学教授 ほそい・ようこ)

レファレンス・ケーススタディ（2）

目録カードからは出てこないけれども

所蔵されている本の探し方——全集・叢書の中の一冊（古典・漢籍篇）

ここでお伝えすることは、白山図書館の利用方法が中心となります。朝霞・川越の方も参考図書の利用方法のひとつとして読んで下さい。

白山図書館で目録カードから図書を探す場合、「辞書体目録」と「分類目録」の二つの目録を使って探します。「辞書体目録」は図書の著者名（共著者・編者・団体名を含む）書名、主題などをヘボン式ローマ字でA B C順にひいていくとそれ等が出てくる便利な目録です。その中には全集、叢書などに含まれている図書も以前刊行されたことがあれば、その叢書の何巻にあるのか、何頁にあるのかわかるようにカードに記されていて、白山図書館の目録の特色のひとつとなっています。

しかし、非常に膨大な冊数のある叢書（例えば『群書類従』や中国の叢書類）は上記のような作業の量が多いため、カード記入を省略してあるので、それ等の全集・叢書に含まれている図書はカードをひいても出てきません。ここでは各主題のもの（仏書の場合は「コスモス」Vol. 14, No. 1に紹介されている）は別の機会にゆずり、全分野にわたるものを紹介します。書名から推測して明治以前に書かれたと思われるものと、漢籍の図書を探す場合、辞書体目録をひいてもでてこなかつた時は下記の参考図書を使って探してみて下さい。いづれも参考室にあります。

右の図書は『國書總目録』の第4巻660頁に載

っている『信玄全集末書』です。辞書体目録で上記図書をひいてみると出てきません。そこで（活字本：活字版で印刷した書物）の項目にある叢書を探してみて下さい。『甲斐叢書』第5巻を探しますと215.1 : Kの請求記号で第一書房、昭和

49年発行の図書名が出てきます。カード上の各巻の内容をおっていと第4—5巻は『甲陽軍鑑』乾坤巻と書かれ『信玄全集末書』の書名は省かれていますが、実は第5巻の中にあります。『武田流軍学全書』を辞書体目録でひいてみると3冊、昭和10年発行のもの（399.1 : T）が同様に探し出せます。「地」とは第2巻のことです。カードの内容をみると出てきます。

『國書總目録』は当館の哲学堂文庫の図書が主として（版本のこと：版本を彫ってそれで印刷した書物）の項のところに東洋大哲学堂とその所蔵が書かれており、たいへん便利なものです。

なお、利用の際は各図書の初めに載っている「凡例」をよく読んで使い方になれて下さい。

書名	出版社、出版年	請求記号	内容
國書總目録	岩波書店 昭和38~51	025.1 K-2	慶應3年まで日本人によって書かれた本の目録。写本、原本は所蔵館までわかる。明治以前の国書の目録としてはもっとも網羅性に富む。活字印刷で出版された叢書の名前がわかる。
國立国会図書館全集叢書細目叢覧 古典編	國立国会図書館 1973~77	081.031 K	幕末までの日本人の著作のうち明治~昭和45年までに活字印刷で刊行された全集・叢書の目録。索引の巻には叢書中の内容資料名から本編のページ・段数・叢書記号が示されている。
日本叢書索引	名著刊行会 昭和44	081.039 H T 2	明治初年までの古典の書名から、収録されている全集・叢書を探す索引。昭和31年までに出版された全集・叢書を対象とする。

☆お知らせ☆

新館長・朝霞分館長御紹介

館長 早田芳郎

〔略歴〕 長野県松本市出身、大正13年10月生。昭和25年3月東京大学法学部卒業。同年4月日本比較法研究所（中央大学）助手。昭和31年4月東洋大学法学部助教授。現在、同学部教授。国際法学会・国際私法学会理事。法制審議会国際私法部会委員。

専攻は、国際私法（特にフランス法）、最近、国籍法にも関心を持つ。趣味は読書。

図書館 あ・ら・かると

★夏休み貸出案内★

白山図書館

期間：7月8日(金)～9月8日(木)

冊数：5冊

範囲：一般図書（新聞・雑誌・参考図書・貴重書等は除く）

返却期限：9月19日(月)～9月24日(土)

※ 共同研究室は10:00～18:30まで利用できます。

※ 8月1日(月)～9月17日(土)は4階の閲覧室は閉室いたします。

視聴覚室

期間：7月8日(金)～7月23日(土)

点数：5点（図書以外に）

範囲：録音テープ全般（禁帶出を除く）

返却期限：9月22日(木)

閉室について

中国の叢書は非常に膨大なものが多く、各叢書の索引もありますが、次の参考図書で探した方が便利でしょう。

中國叢書総録	1959～61	082.039 S	北京図書館以下46の図書館所蔵の叢書2,797種を上海図書館が綜合編纂した3分冊（第1巻総目、第2巻子目、第3巻子目書名、著者索引）
東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録	同研究所 昭和50年	029.6 T-11	東洋文化研究所に昭和43年3月末までに収録された漢籍目録。各冊の書名からひとと、それがどの叢書に収まっているかわかる。画引による書名、人名索引がついている。
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録	同研究所 昭和38年	029.6 K-6	一冊づつの書名で配列され、どの叢書の中にあるものかわかる。「同研究所漢籍目録」は昭和50年までに受入れたもので、下巻は書名、人名索引になっている。

朝霞分館長 松野安男

〔略歴〕 東京都文京区出身、昭和5年9月生。昭和38年3月東京大学大学院人文科学研究科教育学専門課程博士課程満期退学。昭和40年10月相模女子大学講師に就任。43年10月東洋大学文学部講師に就任。現在、同学部教授。

専攻は、教育哲学、特にジョン・デューイの教育思想の研究、その他、科学基礎論に関する訳書や近代日本の就学率の上昇過程に関する論文等がある。趣味は油絵の制作。

7月25日(月)～9月17日(土)は閉室いたします。

朝霞図書館

期間：7月11日(月)～9月1日(木)

冊数：5冊

範囲：一般図書（雑誌は除く）

返却期限：9月19日(月)～9月24日(土)

A V資料貸出受付期間：7月15日(金)～7月22日
(金)

点数：1点

範囲：カセットテープ（音楽テープを除く）

(注) A V室は7月25日(月)～9月17日(土)まで
閉室いたします。

工学部図書館

期間：7月21日(木)～9月1日(木)

冊数：図書・10冊、語学テープ・3点

範囲：全蔵書（但し参考図書・新聞は除く）

返却期限：9月19日(月)～9月24日(土)

◎雑誌の貸出：5冊2週間

開館等の詳細は各館の「利用のしおり」を御覧下さい。

★1987年度の統計から★

図書館の現況の一端を御紹介しましょう。

表1 館外貸出総冊数

白山	40,272 (42,540)	朝霞	15,335 (13,408)	工学部	17,626 (17,519)
----	--------------------	----	--------------------	-----	--------------------

() 内は昨年度

3館合計すると73,233冊。2万人余の学生が在籍することを考えると決して多いとは言えません。複写機が大活躍という現状もありますが、白山図書館の冊数減少は残念です。

表2 蔵書冊数

(63.3.31現在)

	和書	洋書	計
白山	348,988	157,095	506,083
朝霞	84,829	9,292	94,122
工学部	67,475	43,115	110,590
計	501,292	209,502	710,795

3館合計で、ついに70万冊を突破！この知的財産の宝庫を十二分に使って下さい。特色ある分野では館外からも注目され利用者がお見えになる昨今です。

表3 62年度増加図書数

	和書	洋書	計
白山	11,404	5,181	16,585
朝霞	9,545	760	10,305
工学部	3,764	814	4,578
計	23,713	6,755	31,468

蔵書は利用されてこそ価値が出るもの。年々増加していく資料は皆さんの共有財産です。

表4 所蔵雑誌タイトル数

白山	7,502	朝霞	1,124	工学部	1,956
----	-------	----	-------	-----	-------

情報化時代といわれる今日、最新の情報は新着の雑誌、新聞によることが多いでしょう。

3館合計で10,582タイトルあります。大いに活用して下さい。

表5 視聴覚資料

<白山>

音声テープ	ビデオテープ	レコード	CD	スライド	フィルム
5,365	487	4,313	53	203	56

<朝霞>

CD	レコード	テープ	フィルム	スライド	その他
593	1,276	1,891	37	12	114

<工学部>

まだ視聴覚資料と総称出来る段階ではありませんが、ビデオテープを中心に充実中です。

図書館資料もずいぶんと多角化しています。白山図書館の所蔵点数は各種あわせて昨年1万点を越えました。音楽レコード、語学テープに限らず税理士や資格取得用の法律名講義など、なかなかの人気です。

★国際機関等の資料購入開始★

国際化社会にあって国際機関等の情報の収集は大切なことであります。昭和63年度からOECD, ILO, UNESCO 等の刊行物を収集することになりました。

利用はカウンターを通しておこないますが、時間は9時30分から17時までです。

積極的な利用を待っています。

★海外からの見学者

6月1日(水)、イギリスのサセックス大学からドナルド・ワインチ教授がおみえになり、図書館を見学されました。教授の御専攻は経済学史です。

